

2022年10月実績概要（メモ）

（2022. 11. 17）

定修要因が薄れつつも、内外需の不振からエチレン及び誘導品の生産は前年を大きく下回る。

1. 生産動向

イ) エチレン 470,300トン

前月比 +16.2% (+65,700トン)

前年同月比 ▲15.2% (▲84,300トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+ 3.3 %	—
定修要因等	+ 10.3 %	▲ 5.8 %
能力増減	—	—
稼働率変動	+ 2.6 %	▲ 9.4 %
生産増減率	+ 16.2 %	▲ 15.2 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月83.1%* → 当月84.8% ← 前年同月93.7%

定修プラント：前月1社1プラント → 当月1社1プラント ← 前年同月なし

2022年1～10月累計生産量 4,459.5千トン 前年同期比 ▲14.4%

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、日数の増加と定修規模差等からLDPE、PS、SM、塩ビ樹脂、AN、キシレンなどの11品目がプラス。PP、MMAモノマー、SBR、BRなどの6品目はマイナスとなった。

前年比は、定修規模差と稼働率要因等からHDPE、PP、PS、SM、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、MMAモノマー、EO、EG、AN、SBR、BR、ベンゼンなど16品目がマイナス。キシレンのみはプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、日数の増加がある中、LDPEは定修規模の減少や稼働率要因から大幅な増産となった。

また、PSは稼働率の上昇からプラスとなった。これに対して、HDPEは稼働率要因から、PPは定修規模差からそれぞれマイナスとなった。

前年比は、定修規模差と稼働率要因等からLDPE、HDPE、PP、PSの4樹脂ともにマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

消費マインドとしては、消費者物価の高騰が続いており、暮らし向きや耐久消費財の購入の面でいずれも弱い動きが続いている。また、国内の生産活動のマインドも、弱気の見通しが徐々に少なくなりつつあるが、依然、弱気が多い状態が続いている。

樹脂の出荷は、前月比は、LDPE、HDPEは微減、PPは射出成形分野、フィルム分野の増加が見られプラス。PSは前月の反動減もあり、マイナスとなった。

前年比は、分野別の出荷状況では、LDPE、HDPE、PPは多くの分野で出荷が減少することとなった。なお、PPの射出成形分野は、前年の輸送機械の生産の落ち込みに対して、本年は夏場からの増産傾向もあり、比較上、同分野向けの出荷を押し上げプラスとなった。PSは雑貨・産業分野を中心として全般的に出荷が減少しマイナスとなった。

ハ) 輸出

前月比は、中国のゼロコロナ政策の継続等により需要自体が低迷しており、極東市況も軟化傾向にある。当月は生産の増加を受けたLDPEのみはプラスとなったが、HDPE、PP、PSはマイナス。前年比は、LDPE、HDPE、PP、PSともにマイナスとなっている。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対してLDPE、HDPEは増加、PP、PSは減少した。在庫率(季節調整済)は、LDPE、HDPE、PP、PSともに上昇し、在庫水準もいずれも高めとなっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		9月末	10月末
LDPE	+ 9,300	3.6	3.8
HDPE	+ 5,600	4.1	4.4
P P	▲ 4,200	3.4	3.5
P S	▲ 2,800	2.1	2.3

以 上

前月からの修正を*で付記